

トピックス

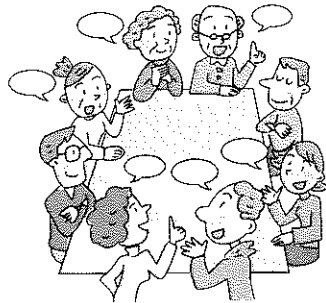
# 「高齢者とのコミュニケーション」

私は、長らく住んでいる西宮の町で、この土地に根ざした仕事をしたいと思い立って、今から10年前57歳の時に、それまで大阪でしていた小さな貿易の会社を西宮に移し、また新しくデイサービスの業務を始めました。以来10年余り、毎日10数名のご利用者様をお宅までお迎えに行き、夕方4時半までお預かりして、共に過ごすという生活を続けております。施設名を、聖書のことばから「ぶどうの木デイサービス」と名付けました。ご利用者様は70歳代から上は103歳の方もおられますが、「高齢者」といっても、お一人お一人、異なった人格、人生の歩み、また異なったお年のとり方をされています。お体の不自由さも認知症のあるなしも個々に違います。当所には若いスタッフも働いていますが、私は自分のような年いった者が介護の仕事をさせてもらうことはありがたいことだと思っております。自分自身の老いも感じる中で、ご利用者様のことを少しは思いはかることもでき、その弱さの中から、接し、触れ合う喜びも味わえるからです。スタッフと共に一人ずつ入っていただく入浴では、みなさんが心を開いてご自身のこれまでの人生や

思いを語ってくださいます。自分の両親や祖父母以外の方から、昔のさまざまなお話を伺えることは得難い貴重な体験です。

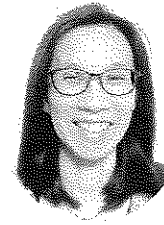
開所時に「あなたの大切な一日をここで」というスローガンを掲げました。また「尊厳、尊敬、慈しみ」というスタッフの心がけも決めました。根底に、高齢の方とその人生を尊敬し、愛する思いを自然体でもてるかどうか、ということが大切なことだと思えます。いつも笑顔で接すること、前向きなほごらかな心を持っていただけるように、会話のキャッチボールのその風船を地に落とさないように話すこと、そんなことを心がけながら日々楽しく働いております。「彼らは年老いてもなお、実を实らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。」

詩篇92:14  
(文・鶴岡信司)



# Blessing Shower

「ホーム」 デルミン 康子



私達家族が西宮に住み始めたのは2人目の子どもがお腹にいる時だ。転勤族の娘である私は中学3年間を西宮で過ごしたが、それ以外にも南甲子園に住んでいた祖父母を訪ねて、しょっちゅう西宮には来ていた。小さい時は、阪神パークでレオポンを見たし、甲子園浜で広い海を見ながら祖父と沢ガニを捕まえた。中学の時は、浜甲子園の厚生年金プールで泳ぎ、マイケル・ジャクソンが西宮球場に来た時は学校で友達と大騒ぎした。大人になって、また西宮に住むようになり、西宮は私の「ホームタウン」になった。しかし同時に私は、西宮に愛着は感じて、執着はしない。それは、私が、神様を礼拝し、祈り、聖書を読み、学びを深め、神様を愛し、夫を愛し、子ども達や周りの人を愛する生活を送るのに、場所は関係ないからだ。聖書の「わたしとわたしの家は主に仕えます」(ヨシュア記24章15節)という言葉、私は結婚してからずっと心に留めてきた。子ども達が独立しつつある今の私にとって「家」とは夫だ。神様は、私と夫がどこにいても、必ず共にいて、私達を愛し、赦し、恵みの中で生かして下さる。根無し草のような子ども時代も、海外にいた青年期も、怒涛のような子育ての日々も、毎日の生活にはもちろん色々あったけれど、私の心の奥底には平安と希望があった。それは、神様に愛されている確信があったから。そして、神様が共に歩んでくださっていると知っていたからだ。これからも、「ホーム」(天国)に召されるその日まで、わたしとわたしの家は、神様に助けられながら、主に仕えていく。

## The・インタビュー Vol.24

～プロフェッショナルに聴く～

### 大人が楽しむ絵本の魅力

～絵本は「心の故郷」～

教会員が  
お答えします!!

笹川直子

(NPO法人「絵本で子育て」センター)  
絵本講師

柳田邦男氏は、「絵本は人生に3度」「大人こそ絵本を」の呼びかけを20年以上続けて来られました。

「人生後半、あらためて絵本を読むと、様々な人生経験が、絵本の物語に重なってきて、深い味わいや感動や心のやさしさがよみがえってくる。」と

最初に紹介する絵本『スーホの白い馬』(大塚勇三/再話、赤羽末吉/画、福音館書店)は、馬頭琴の起源だと伝えられるモンゴルの民話です。貧しい少年スーホは、大切に育てた白い馬を王様に奪われ殺されてしまいます。夢枕に白い馬が現れて、「自分の体で楽器を作ってください。スーホといつも一緒にいられるから。」と語りました。スーホが奏でる馬頭琴の音色に皆は耳を傾け、慰められるのでした。



次に紹介する絵本『だいじょうぶ、だいじょうぶ』(いとうひろし/作・絵、講談社)は、祖父と孫の心温まる物語です。ストーリーは、散歩の時、孫が困ったことに出会うと、祖父はいつも「だいじょうぶ、だいじょうぶ」とおまじないのようにつぶやくのです。

やがて、祖父がもっと年老いて病気になった時、孫は祖父の手を握り「だいじょうぶだよ、おじいちゃん」と語りかけます。「だいじょうぶ」の言葉は、祖父から孫へと引き継がれて行きます。クリスチャンにとって「だいじょうぶ」の根拠は、どんな時も「神共にいます」の信仰です。

私が人生の後半に入った時、聖書と共に、絵本は少ない言葉や絵の数で人生について、いのちについて、生きる上で、本当に大切なものに気付かせてくれました。肉声で語りかけることで、言葉にいのちが吹き込まれ、いのちの温もりは人間関係を潤し、親密な交流を育みます。絵本は、「いのち言葉」の宝庫です。存在を喜ぶ「いのち言葉」と対抗するのは、「道具言葉」です。「道具言葉」は行為(doin)を促し「いのち言葉」は存在(being)を温め、励まし生きる意欲を引き出します。幼き日に読んでもらった絵本から読んでくれた人の声や表情、温もりもよみがえってきます。私も祖父母と暮らせた数年間を今でも懐かしく思い出します。絵本を読み聞かせてもらったことはありませんでしたが、日常の何気ない会話や祖母の語る昔話の中に「いのち言葉」が豊かにありました。絵本はそのことにも気付かせてくれました。祖父母の皆様、お孫さんと一緒に絵本を楽しんでください。絵本は世代を超えて絆を育みます。

## くつきんぐ コーナー

### 「揚げ餃子」



#### ◆ 材料 ◆

餃子の皮	30枚
ミンチ	150g
青ネギ	50g
人参	50g
生椎茸	50g
生姜(すりおろし)	小さじ1
ニンニク(すりおろし)	小さじ1
塩・胡椒	適宜
ごま油	大さじ1 (炒め用)
揚げ油	

#### ◆ 作り方 ◆

- ① 野菜をみじん切りにする。
  - ② フライパンに油をひき、生姜・ニンニクを炒め香りがしたらミンチとみじん切り野菜を入れ炒め、火が通れば塩・胡椒で好みの味をつけて冷ます。
  - ③ 餃子の皮に②を包み、170度の油で、きつね色に揚げれば出来上がり。
- \* そのままでも美味しいですが辛子醤油をつけても美味しいですよ。

希望のダイヤル  
毎週メッセージが変わります

0798-20-9666

パソコン、スマホからYouTubeでも視聴できます。  
一麦西宮教会で検索してください

by H.H.